

●オオタカのように

先端科学研究所長 吉田 徹彦

はじめに

先端科学研究所（茨城県つくば市）敷地の林にはオオタカが生息しており、昼休みの散策時にはバードウォッチング用の双眼鏡（倍率8倍）を持参してオオタカを観察しています。オオタカが気持ちよく飛んでいるのを見ますとすごく嬉しい気持ちになります。オオタカは羽ばたくことなく大空を旋回しながらあっという前にいきなり天高く上昇していきます。数羽のオオタカと一緒に旋回しながら上空へ飛んでいく光景はまさしく鷹柱を彷彿させる感があります。

あるオオタカとの出会い

私はその中の一羽のオオタカに格別の想いを持って接しています。今年の5月、大雨で流れが速くなった農業用水路に誤って降りてしまったオオタカの幼鳥が、激流となっていた水の流れに逆らえず用水路から飛び立つことができなかつたところを、散策時に愛用している麦わら帽子に捕まらせて用水路から何とか救出しました。幼鳥とはいえ、さすがに猛禽類の王者オオタカでありますので、地面で翼を大きく広げて威嚇してきました。私は、オオタカに向かって、「助けてもらっておいで その態度はなんだ！」と一喝したらオオタカは奇跡的に素直に翼をたたみました。しかし、決して私から逃げようとせず、いつでも私に攻撃出来るように堂々と黄色の鋭い目でじっと私の動きを見つめていました。恐らく羽が乾くまで時間を稼いでいたのであったと思います。私はオオタカがカラスの集団に襲われないように慈悲の心でその場を離れずにいました。15分ほどオオタカと私のにらめっこ状態が続きましたが、幸いその日は天気が良く羽が早く乾いたらしく、オオタカはその場を飛び立ち、低空で私の頭上を旋回して近くの木の枝に留まりほっとしている様子でした。



筆者とオオタカ

オオタカの翼とウィングレット

それからオオタカとの付き合いが始まっています。毎日、双眼鏡を覗きますとオオタカは羽の先をそそり立たせて大空を優雅に舞っています。時々、大空から羽を広げてそのまま地表へ一直線に向かってくることがありますが、オオタカが両翼の先を垂直に立たせている姿は美しいほど勇壮です。その姿に魅せられたことによるものと思うのですが、国際学会等で海外に出かける時にはエアバスA340に乗る機会が多く、その時は、主翼のウィングレット（Winglet：航空機の主翼端に取り付けられる小さな翼で、翼端渦を整流させ空気抵抗を減らし、結果として燃費を5%位向上させる効果があります）を常に見ながら乗っていたいため、可能な限りエアバス主翼の付け根近くの席に座るようにしています。航空機のウィングレットは、タカなどの猛禽類の翼の先端の風切り羽が、様々な状況において常に最適に変化し安定飛行を維持していること、特に大空を滑空しているときの羽の先端は上にそそり立っていることをヒントに飛行機に応用されたものです。



オオタカのアップ

オオタカと先端科学研究所

今日もいつものようにオオタカが先端科学研究所の上空を気持ちよく旋回しています。オオタカからは、どんな困難な問題にも決して逃げずに堂々と立ち向かう気高い精神性、無闇にばたつかず優雅に大空を滑空、旋回できる知性、智慧を教えられています。

オオタカから教えられたこれらのことは、先端科学研究所員ならびに先端科学研究所内に併設しております慶應義塾大学先端研究センターのメンバーと共有し、研究を通じて真の社会貢献ができるように努力致しております。

つくば方面にお越しの際は、どうか大空を見てオオタカをお探しください。